



安全な飲み水で 人々の生活を劇的に変える!

世界中で井戸を掘る土木技術者のシゴト

課題設定
探究テーマ
飢饉に苦しむ人々を救うには

子どもの頃、飢えた子どもたちに八工がたかっている映像をテレビで見て、いつもご飯を残す方だった私はあまりの世界の状況の違いに愕然としました。「何とかしないと…」という思いがずっと心に残り、高校生の頃に飢饉に苦しむ人を救うため「鳥取大学で乾燥地帯での農業を学ぼう」と決意しました*1。高校時代は、砂漠地でも育ち、食糧にもなるサボテンの栽培に熱中していました。必死に勉強し、無事合格はできたものの、大学時代はワンダーフォーゲル部*2の活動に打ち込みすぎて1年間留年。そして学業を疎かにしたせいで、希望する乾燥地帯での農業ではなく、農業土木を学ぶコースにしか進めなくなってしまいました。そこで、人生を見直すと同時に、世界の現状をこの目で確かめるために、1年間大学を休学して一人で世界を旅することを決意しました。

*1「鳥取大学乾燥地帯研究センター」という砂漠化や干ばつなどの諸問題に対処するための研究拠点がある。
 *2仲間と協力して、自力でアウトドアを行う部活。登山や沢登り、サイクリング、雪山登山など多岐にわたる活動をする。

情報収集 **整理・分析**
一本の井戸が生活を大きく変える

休学して、路線バスやヒッチハイクで世界を旅していました。アフリカに行って驚いたのは、すべての地域が報道されているような不衛生で不安定な状態ではないということ。旅の途中、服を洗濯して干しておく、勝手にアイロンがけまでしてくれた村人もいました。そんな、衛生的で、助け合いの文化が根付いた豊かな村をたくさん見てきました。一方で内戦後の国では、トラックから投げ捨てられた1枚の食パンを道路脇の飢えた子どもたちが奪い合っている光景も目の当たりにしました。それらの地域の格差を左右するのは、治安

◀日さく本社敷地内にある防災井戸。災害が起きたときに非常用として使用することができます。

JOB こんな仕事をしています! 安全な飲み水と安全な地域を創る井戸づくり

北アフリカや西アジア地域では、不衛生な水が原因で5歳未満の子どもが毎日1,000人以上も命を落としています。私はこれまで、カンボジア、ベナン、イエメン、ウガンダ…など様々な地域で安全な飲み水を確保するための井戸をつくってきました。子どもができてからは日本で地すべり

や、斜面の崩壊を防ぐための土木工事を主に行っています。地すべりは、大雨などによって地下水が増加し、地層がすべりやすくなることによって発生します。だから、地すべりを防ぐために、地下水を排水する、「集水井」をつくるなどの特殊土木工事を行い、災害を未然に防いでいます。

水の問題が飢饉につながっているのか〜



と安全な水があるかどうか。水が不衛生な事で、人々の病気のリスクも高まります。世界中の現状を見る中で、安全な水の大切さ、そして1本の井戸の大切さを実感。井戸をつくることが飢えている人々を救うことにつながると思うと、農業だけでなく土木を学ぶことができたのはむしろ良かったのではないかと感じています。

ちなみに世界では、77億人中…
 22億人が、安全に管理された飲み水を使用できない。
 42億人が、安全に管理されたトイレを使用できない。

出典:WHO/UNICEF JMP (2019) Progress on household drinking water, sanitation and hygiene 2000-2017. Special focus on inequalities.



Yay!



きれいな水が出て喜ぶガンビアの子どもたち

◀水汲みをするベナンの子どもたち。井戸によって安全な水が簡単に手に入る。



▶動画はコチラ

Action!

0からつくる経験が、土木の知識を深めた

日さくに入社し、海外の様々な地域のプロジェクトに携わりました。海外と日本では環境がまるで違う。コンクリートを打つには日本では生コン車を呼ばないのですが、そんなものはありません。コンクリートに必要な砂・砂利を探るところから始まります。試験的に練り、強度・温度・塩分量(多いと鉄筋がさびる)・空気量などをチェック。素材を調整しながらコンクリートをつくっていくんです。土木の知識だけでなく、良い素材を探すために地形を読む力も必要。ワンダーフォーゲル部での活動も仕事に活かしました。全くの0から何かを生み出す仕事は日本ではなかなかできないですし面白い経験でした。

常に軌道修正しながら、自分の人生を考える

どんな道に進み、どんなことをやっても、結局は自分がどう方向性を考えていくかだと思うんです。振り返ってみるとすべての経験が今につながる。私は常に何かに熱中し、学び、軌道修正しながらこれまでの人生を歩んできたのかなと感じます。

Mission みんなへのミッション!

- 6-3** 世界の水を汚染しているものは何か調査し、それを改善するための具体的なアイデアを考えてみよう
- 6-4** 災害時でも安全な水を確保するにはどうすれば良いか事例を調査してみよう
- 6-5** 山や森、湿地、川などをよりきれいにするために私たちにできることは何か考え発信しよう

動画では海外での仕事の様子についても語っているよ!



COMPANY 株式会社日さく(建設業)

明治45年創業。以来100年以上にわたり、日本における災害対策・水源確保・地下資源採取のためのさく井工事などを行ってきた。その他、ODA(政府開発援助)のプロジェクトとして海外でも事業を展開している。

PROFILE

肥后明彦さん(48歳)
 新潟支店 土木部
 【出身校】東松山市立南中学校、埼玉県立川越高等学校、鳥取大学 農学部農材総合科学科生産環境工学コース
 【趣味】登山、パラグライダー、サボテンの栽培

